

## 国際園芸博覧会の開催に向けた取組状況について（報告）

## 1 国際園芸博覧会の主な検討状況について

花・緑・農が身近にある豊かなライフスタイルの提案、人がつながり幸福感が深まるコミュニティの醸成、横浜の歴史が培った園芸技術の発信や市民力の発揮など、横浜・上瀬谷の資源を活かしレガシーとして継承できるよう、事業内容の検討を進めています。

## 【参考】開催目的

横浜国際園芸博覧会は、地球温暖化など世界的な課題を踏まえ、日本特有の自然との関係性の中で、自然環境が持つ機能を課題解決にいかす知恵や文化について、その価値を再評価し、持続可能な社会の形成に活用することを目的としています。

## (1) 会場構成

上瀬谷特有の地形や既存樹木等の自然資源をいかし、水循環や緑陰などを徹底的に活用するグリーンインフラの実装や、自然と共生する里山の思想の導入等により、持続可能な都市づくりのモデルとなるような会場整備を目指します。

多様な主体が集い新たな価値を創り出す Village や自然の力や不思議さについて驚きや感動を伝える中核展示、世界から花が集う国際出展庭園等を、会場内に展開します。

## &lt;会場イメージ&gt;



## &lt;グリーンインフラの機能&gt;

- ・気温上昇の抑制
- ・良好な景観形成
- ・生物多様性の保全
- ・環境負荷の低減 など

自然豊かな空間の中で、多くの来場者や、企業、団体、研究機関等の出展者、支援者の参加者同士が、新たな気づきや学びの中で繋がり、多様な交流を生み出します。

## (2) 博覧会協会テーマ事業“Village”

Village は、目指すべき未来像を具現化するため、博覧会協会が設定した複数のテーマに応じ、賛同する民間企業や教育機関、研究機関、市民などが共創して、参加・交流・体験の多様なコンテンツの集合体やコミュニティを形成するものです。

## &lt;Village イメージ&gt;



## 【Village のテーマの例】

## 次世代の環境共生都市

最先端の農がある暮らしなど、デジタルが支える次世代の環境共生都市の姿を民間企業、行政等が連携して実証

→Green Smart City として目指すべき都市のデザインを横浜から発信します。

## 上瀬谷の自然を活用した人づくり

上瀬谷の自然や農を活用した教育プログラムによる企業の研修所や農福連携等を展開

→多様な価値や社会的包摂に対応した働き方を提案し、地方創生の担い手を育成します。

## (3) 中核展示

中核展示は、多くの人々の来場のきっかけとなるよう、魅力のある博覧会全体の象徴となる主催者展示です。この展示は、持続可能な地球環境や自然との共生の大切さへの気づきを促し、本博覧会のテーマへの訴求力を高めることを目的としています。

## &lt;中核展示イメージ&gt;



Biophilia (※) の考え方を捉え、植物の持つリアルな美しさや生命力の体感とデジタルによる新たな視点で、植物の力と可能性を組み合わせ、来場者に多大な感動を与える展示を検討しています。

※ Biophilia (バイオフィリア) は、人間が潜在的に自然・生命と結びつきを求める本能を持っているという概念

## (4) コンペティション

コンペティションは、国際園芸博覧会を象徴するイベントであり、花き園芸・造園の技術の向上、産業の発展、文化の推進等に大きく貢献するものです。本博覧会では、AIPH 規則に則った庭園及び製品のコンペティションを基本とし、さらに本博覧会のテーマに沿った独自企画のコンペティションを実施します。実施に当たっては、我が国の花き園芸、造園業の需要拡大、輸出拡大に繋がる内容や国内外から多くの参加が得られるような仕組みを検討しています。

## &lt;コンペティションイメージ&gt;



裏面あり

(5) 国際出展庭園

各国から出展される国際出展庭園は、園芸に関する国際理解を深め、互いの良さを学び、技術の進展に繋げていきます。多くの国からの出展により、来場者が各国の花や緑がある暮らしや文化を五感で体感しながら回遊できる空間を創出していきます。なお、国際出展庭園は、庭園のコンペティションにエントリーされ、その美しさや技術等を競うこととなります。

<国際出展庭園イメージ>



(6) 今後の予定

これらの検討内容については、博覧会協会において、令和4年6月に基本計画案としてとりまとめられ、その後、基本計画として公表される予定です。本市としても、市民の皆さまへの周知を丁寧に行うとともに、市会への報告を行い、ご意見をいただく予定です。

(2) フェーズ設定

園芸博の認知度及び来訪意向を高めるため、準備から閉会后までのフェーズを設定し、具体的な施策を展開していきます。

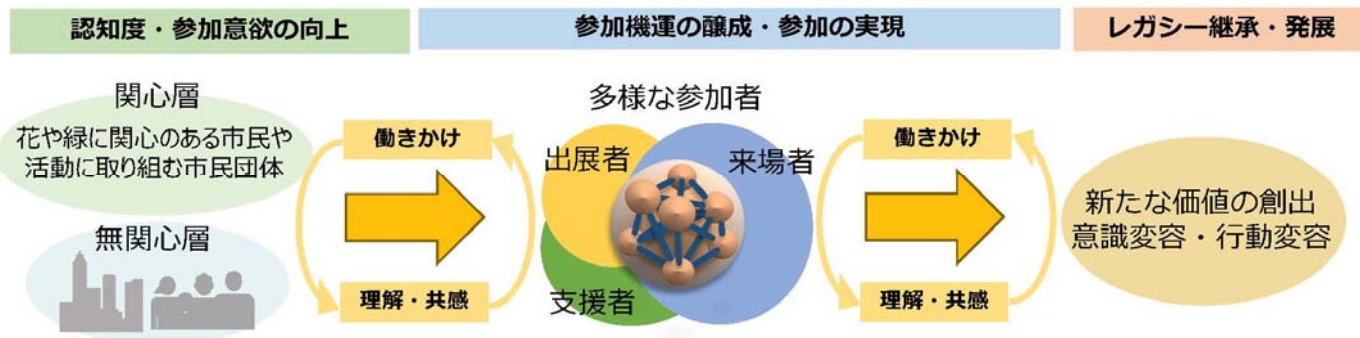
	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
	フェーズ1		フェーズ2		フェーズ3	フェーズ4	フェーズ5	
	存在認知拡大期		コンテンツ認知拡大期		来場促進期	理解共感期	レガシー発展期	
フェーズ	フェーズ1【存在認知拡大期】							
実施年度	2021年度		2022年度			2023年度		
主な広報	●博覧会協会設立総会・記念式典		●FLOWER YELL 2027		●アルメレ園芸博出展PR		●ドーハ園芸博出展PR	
			●BIE申請発表		●BIE承認発表			
			●基本計画案発表		●基本計画発表			
			●ロゴマーク募集		●ロゴマーク発表		●マスコット発表	
			※アンバサダーを活用した効果的な発表を検討					

<各フェーズと施策のイメージ(フェーズ1)>

2 広報PR・機運醸成

(1) コミュニケーションの展開

博覧会の成功に向けては、博覧会の意義や魅力を積極的に市民の皆様に伝えることにより、共感と盛り上がりの機運醸成が重要です。様々な情報発信ツールを活用し、市民活動と積極的に連携しながら、活動の輪が広がっていくよう取組を進めます。また、若い世代や企業が参画しやすくなるよう、開催前からシンポジウムをはじめ、話し合う場を設けていきます。



<コミュニケーションの展開>

(3) 3月の主な取組

ア 「FLOWER YELL 2027」の開催

3月24~26日、クイーンズスクエア(西区みなとみらい)のイベントスペースに日本花き振興協議会の協力を得て制作する巨大な花束オブジェを展示し、来場者に花を配布する「FLOWER YELL 2027」を、協会とともに開催します。

イベント初日にはステージイベントを開催して周知効果を高めます。



<巨大花束のイメージ>

イ 瀬谷西高校との連携

神奈川県立瀬谷西高等学校は、SDGsの実現に向けて総合的な探究の時間(SEYANISHI SDGs Project)に取り組んでおり、今年3月14日には、生徒と市職員による意見交換会を実施しました。なお、令和4年11月には、市役所アトリウムで「瀬谷西SDGs園芸博覧会」を学校と連携して開催する予定です。今後も市内の学校と連携した取組を展開していきます。



<瀬谷西高校チラシ抜粋>